



港区立高松中学校 学校だより<第4号>

令和5年7月19日 校長 中山 幸子

創立1949年(昭和24年)

<高松中生のあたりまえ>推進校

港区高輪1-16-25

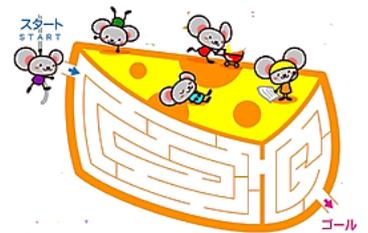
## 考える大切さ

さきほど、通知表に校長印を押しました。明日には生徒一人ひとりに通知表が手渡されます。

生徒たちは、成績について一喜一憂するかもしれません。手応えや達成感を味わう人や、想像はしていたけれど・・・と元気をなくす人もいるかもしれません。しかし、これはあくまでも4月から7月までのものです。大切なのは、成績が上がった人、変わらなかった人、下がった人、それぞれがどう学んでいくか「今後をどうしていくか」を考えることが重要です。

ある実験結果を紹介します。

えさを置いた迷路の入り口にネズミを置いて、どのような行動をとったネズミが早くえさにたどり着けるかを観察した実験です。同じ経路を進むネズミ、行き場がないとわかるとすぐ他の道に行くのを繰り返すネズミ、失敗しては立ち止まり、ほかに進むネズミ、一番早くたどり着いたネズミはどれだと思いますか？



正解は、失敗しては立ち止まり(考えて)ほかの道を進み、えさにたどり着くネズミでした。もう少し、説明すると、失敗(経験)してそこから得られたものを考えて、えさにつながる道を見付け、一度通った道を選ばないネズミでした。

もうひとつ、紹介しましょう。

あるテストについてです。学習方法は次の2つを行い比較しました。

A: 何度も問題を繰り返して解く、反復学習

B: 思い出させる学習



学習の定着は中期と長期の二回に判定しました。中期では両者に大きな差はなく、長期では思い出させる学習の方が定着がよかったという結果が出たそうです。

この2つからわかったことは、自分で考えたからこそ学習効果があがったのではないのでしょうか。

先生に言われた、指示されたことだけをやればよいという受け身では、自分の可能性の広がりには十分とは言えないと思います。自分から自発的に、積極的に考えて行動する、その行動もどの方法を選択するのか、いつまでに、何をしたらよいのか「戦略的」に考える人が、なりたい自分になったり、近付いたり、夢をかなえられる人なのだと言われます。経験上から私は感じます。

42日間の夏休みを、何でもかまいませんので、じっくり考えて行動して結果(失敗でも成功でも大丈夫)を出してみてください。どのような経験からでも、学ぶものはあり、今後に活かされます。

最後になりましたが、1学期を無事に終わられるのも保護者、地域・関係機関の皆様のご理解とご協力のおかげです。ありがとうございました。2学期もよろしくお願いいたします。